

# 大型資金調達可能に

## ガリアプラス 売掛債権担保で

昨今の厳しい経営環境の中、販売先の倒産などで売掛金や受取手形が回収不能になったり、増加運転資金などで緊急な運転資金が必要と考える中小企業も多いはず。そんな中、住友商事グループのガリアプラスはこのほど、売掛債権を担保に大型の資金調達を可能にした。

一般的には、不動産などの物的担保がなければ大型な資金調達は難しいところだが、同社の「売掛債権担保融資」であれば、最速で2週間あれば2億円までの融資が可能となる。最大の特徴は、借入企業が保有する全売掛債権をモニタリン

グし債権評価し、キャッシュフローを把握して融資するというスキームだ。売掛金を担保にという点匠込みしてしまう企業も多いかと思われるが、取引先には承諾・通知が必要な商取引の流れも従来通りで、一切変える必要もない。もともと欧米で生まれ

円にも達している。日本でも昨今急速に発達し、利用する企業が年々増え続けている。「売掛債権担保融資システム」で特許も取得してお

り、自らの融資以外に金融機関に対しても同社の仕組みを提供しており、今後ますます広がりを見せることになる。売掛金を担保に取るため、代表者等の個人保証は原則として不要。また企業のキャッシュフローを評価し与信を行うので、銀行では融資できない前期赤字・債務超過の企業に対しても積極的に貸し出しを可能と

する。利用企業は多岐にわたるが、特に食品業界には有効だ。なぜなら、同社の売掛債権の評価方法は、全売掛先をバルクで一括与信するからだ。つまり、売掛先数が多ければ多いほど高い評価を得られる。相手先が上場・優良企業でなければいけないという点は全くなく、数多くの得意先と取引していることがポイントと

なり、リスク分散されているという考え方だ。特に食品卸業は、数多くの取引先に対して商品を卸すという取引形態上、必然的にガリアプラスの融資手法に合致する。もちろん食品メーカーであっても、取引数が多ければ同様に、つまり食品業界全般に、同社の「売掛債権担保融資」のビジネスモデルはびつたり合致する。(田村幸治)

日本食糧新聞

2009年(平成21年)4月22日(水曜日)